

「名古屋からニューヒロイン期待」

愛知陸協・榊原茂専務理事



名古屋ウィメンズマラソン 2024 の開催（3 月 10 日）を前に、主管の愛知陸上競技協会・榊原茂専務理事から「名古屋からニューヒロインが出るのを期待している」とのコメントをいただきました。

◆コメント

女性だけが走る数少ない大会を今年も開催でき、喜びとともに責任感をかみしめています。

コースはアップダウンが少なく、名古屋の名所を回るコースです。名古屋城、中部電力 MIRAI TOWER（名古屋テレビ塔）、市科学館の世界一のプラネタリウム、建設中の IG アリーナ（新愛知県体育館）の近くや、100 メートル道路と呼ばれる若宮大通、久屋大通も走ります。2026 年アジア・アジアパラ競技大会（愛知・名古屋大会）を前に、さまざまな景色でランナーをお迎えします。

愛知陸協からは審判約 640 人が参加し、競技者の安心・安全確保に努めます。7600 人以上のボランティアにも協力いただきます。

名古屋ウィメンズマラソンでは、前身の名古屋国際女子マラソンの時代から、記憶に残る多くのレースが展開されました。

高橋尚子さんは 2000 年に優勝し、シドニー五輪金メダルにつなげました。02 年、野口みずきさんは初マラソンで初優勝。24 年に出場する安藤友香選手は 17 年、当時の初マラソン日本最高記録を名古屋で出しています。パリ五輪内定の一山麻緒選手は 20 年に当時の日本歴代 4 位の記録で優勝し、東京五輪代表の座を獲得しました。同じく五輪内定の鈴木優花選手も 22 年に初マラソンで学生記録。24 年に出場する鈴木亜由子選手は 23 年、自己ベスト 2 時間 21 分 52 秒で前田穂南選手をかわし、日本人トップでゴールしました。

名古屋からはニューヒロインがよく出ます。2024 年も新たな歴史が刻まれることを願っています。

榊原茂（さかきばら・しげる）

1952（昭和 27）年 6 月、名古屋市生まれ。中学から大学まで陸上部に所属し、走り幅跳びをはじめ跳躍を中心に活動。75 年から、中学教諭として陸上部顧問を務める。1982 年ごろから愛知陸上競技協会審判委員会委員を兼務し、2023 年から同協会専務理事。名古屋国際女子マラソン、名古屋ウィメンズマラソンの実行委員会競技役員を長く務めている。好物はそば。大学時代からの写真撮影が趣味で、名古屋市の教員展で入賞している。